

令和3年度第1回大和町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和4年2月24日(木) 午前11時から12時02分
- 2 開催場所 庁舎302会議室
- 3 議 題
 - (1) 令和4年度の教育分野における主な事業について
 - (2) その他
- 4 出席者
浅野町長, 上野教育長, 鎌田教育長職務代理者, 若生委員, 木皿委員, 大内委員
- 5 会議に出席した事務局職員
総務課長, 同副参事, 教育総務課長, 同課長補佐, 生涯学習課長, 公民館長
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議の概要 以下のとおり

開 会

総務課長：今回の会議にあたりまして、教育委員会定例会議を30分早めていただきありがとうございました。

それでは定刻となりましたので、令和3年度第1回大和町総合教育会議をはじめさせていただきます。開会にあたりまして、浅野町長から挨拶を申し上げます。

開会挨拶

町長：皆様、おはようようございます。令和3年度第1回大和町総合教育会議を開催させていただきました。皆様方には、只今申し上げましたとおり、教育委員会会議の時間調整をしていただき、開催いただきましたこと感謝申し上げます。また、日頃より教育行政、町のふれあいにつきましても貴重なご意見、ご協力をいただいておりますことに御礼申し上げたいと思います。

令和3年度第1回であります。来年度の教育分野における主な事業についての議題であります。3年度につきましては、今年もコロナの影響で課題が多く、2年目3年目になってまいりましたので、先生方も大変ご苦労が多い中状況にあった対応をしていただいております。いろいろ厳しい環境の中で、教育行政を進めていただき感謝申し上げているところでございます。

最近またコロナが非常に増えてきています。学校・保育所・幼稚園あるいは家庭内と感染が大変広まってきているようです。宮城県内はなかなか収まらない状況で、東京をみますと、また増えてきている状況であります。

子どもたちも卒業式間近ですが、コロナだけで卒業しなければならない子どもたちもいるのだなと思っています。大変な時代であることを改めて思っております。

このような中でも、子どもたちの教育・学校生活が子どもたちに合う対応をしていきたいと思っております。教育委員の皆様から大変なご協力をいただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

教育会議ということでございます。会議といいましても、ざっくばらんな意見交換と思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきながら、意見の交換をさせていただきまして、意義のある会議となればと思っております。ご協力を申し上げます。

総務課長：それでは、次第3議題、令和4年度の教育分野における主な事業についてに移らせていただきます。

要綱の中では、町長が議長となり議事進行を行うとしておりますが、意見交換という内容でございますので、私、総務課長が進行をさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

それでは、資料に基づきまして1ページから、それぞれの担当事業につきまして、教育総務課長、生涯学習課長、公民館長から説明をさせていただきます。

議 題

(1) 令和4年度の教育分野における主な事業について

教育総務課長（資料に基づき説明）

生涯学習課長（資料に基づき説明）

公民館長（資料に基づき説明）

総務課長：以上が、令和4年度の教育分野における主な事業となります。引き続き意見交換に移らせていただきます。この総合教育会議は、町長と教育委員会による執行機関同士の幅広く自由な意見交換を行う協議調整の場と位置付けられております。皆様からの自由なご意見、ご質問等をお願いします。

木皿委員：公民館事業の中で、女性教育事業がある。名称を今、ジェンダーが話題になっている中で、女性教育という名称で良いかが疑問である。

ただし、女性教育の名称を変えた場合、男性の参加が困るとか特別に何かあるのか考えていただきたい。

公民館長：名称の女性教育が今の時代にそぐわない部分はあるが、女性の講座が大事な部分もある。この講座に男性が参加していけないことはないので、申し込みがあれば参加できる。女性の編み物やハンドメイド的なものは、昨年から引き続き実施しているが好評である。パターン化されたものだが、皆で同じものを作る交流の場がほしいということであり、大きく内容を変えることができなかった事業である。

名称としては、考えていかなければならないと思っており、検討の時期にきていると思う。

町長：なかなか今は、難しい。男女共同参画事業を町で実施しているが、男女の表現でよいのか今の時代、疑問に思う。

鎌田代理：教育総務課の小学校総務の事業に、林間教育があるが教育活動そのものと思うが、他の事業を見ると教育をサポートする事業内容である。林間教育は、事務局運営の陸上記録会とかに入る方が教育活動なので良いのではないかと思う。

教育総務課長：林間教育の内容であるが、難波校舎・嘉太神校舎を利用した学級活動と小規模校の交流教室を予定している。学習活動においては、各小学校においてどのような内容に取り組むか考えていただいております、例えば、自然散策等行っている。林間教育については、移動するバスとかの経費をサポートしている。

鎌田代理：分かった。

若生委員：生涯学習課の教育ふれあいセンター管理運営の中で、吉田教育ふれあいセンターのグランドフェンス設置修繕工事となっているが、自宅がある側のフェンスの修繕か吉田川沿いにある古いフェンス修繕か、どちらの修繕になるか教えてほしい。

生涯学習課長：最近、猪がグラウンドに入ってくることがあるので、その被害を防ぐため、皆さんに話を聞いたところ東側のフェンスが設置されていない部分がある。そこから猪が入ってきているようだと聞いているので、今回フェンスのない東側の部分に新たに設置する。

ただし、車が通ることもあるので、車の出入りができるようにフェンスを設置する。

若生委員：教育総務課の学校給食センター運営だが、学校給食運営審議会は各校から選抜された方々で集まるものである。私もPTA会長の時に、役員になり出席した。その時に給食費の未納が、凄く増えた。その後で、児童手当から年間分引き落しできるようになった。今、給食費の未納はまだあるのか。

教育総務課長：児童手当からの引き落としについては、現在も行っている。引き落としについては、年2回、前回と同じ形になる。

未納については、今、詳しい金額の資料はないが確かにある。未納はあるが、令和2年度と令和元年度を比較して間違いなく未納額は減少している。

若生委員：折角材料費など抑えてもらい、給食費も抑えてもらっているのに、その辺を保護者に理解してもらい、児童手当を活用するとかして未納を少なくしてほしい。

教育総務課長：なお、引き続き未納については徴収していきたい。

大内委員：4年度の教育分野の事業ということで、教育委員会と町長で計画し、財政課長と議論され金額は別とし、このような事業に対応することだと思う。事業に対してではないが、教育に携わり1年位やってきて、大和町の教育に関する課題に対して質問させてもらった。その中で、4年度を踏まえた5年度への事業費の配分の中で、今後の町長の考え方を聞きたいと思っている。

まず不登校に対する対策で、教育長からは不登校の割合は、県全体が9%代、大和町が5%代と聞いている。数字的に間違っていたら申し訳ない。その効果は何か教育長室で話をした時に、5・6年位前から学力向上対策を実施している。当然学力向上対策で、人とかを増やし対応している。それぞれの子どもへの対応も、いろいろな目標を持たせたりし、その対策が不登校対策でなく、学力の向上が不登校対策に繋がったと分析として説明を受けていた。今後、加配については一人増やすことで、町独自では厳しいところもあるのでしょうけれども、そういう事については、今後とも例えば教育相談配置事業に2名配置とか外国語指導助手招致事業と並ん

でいるが、そのような部分にプラスαの加配を少し頭においていただきながら、教育委員会からもいろいろ要望があると思うがお願いした。今でも、大和町は他の市町村に比べて、手厚いと聞いている。是非改めてその辺をお願いしたいと感じた。

教育に携わって思うのは、義務教育の間にいろいろな形で、児童・生徒に携わることは大切なことである。高校に行くと出席日数とかいろいろな形になって、当然留年とかあるし、義務教育の間は、例えば学校に行けなくてもそれなりに卒業させてもらえる。そういった中で、高校に行った時に行けなくなって、結局引きこもりに繋がっていくケースも今の社会の大きな問題になっている。そのような対策は、義務教育だと思っている。是非そのような事への予算化を今後よろしく願います。

町長：今の学校関係については、我々の子どもの頃に比べると課題もいろいろあるようである。話を聞くと先生方の負担・課題が大きくなっている。学校関係、教育委員会から概ね話を聞いていることがある。加配は必要なことだと思っているが、どこまで対応するか心配ないところもある。

親御さんの思い、余りにも学校の先生にお願いしている部分が大きいのかと思うところがある。教育が難しくなっているのか、社会が難しくなっているのかと感じる。学校の負担・先生方の負担・親御さんの負担も増えているのですが、学校の負担・先生方の負担はもっと増えている。町として対応していきたい。

大内委員：自分たちは、先生に怒られたら親にも怒られる。今は親が、自分がする事を放棄しているのではないか。結局先生方が大変なのだと思う。今、そういう事でメンタルで休職している先生がいるのではないかと思う。その辺で、どこまで教育委員会がやるべきことなのか水準もあるでしょうが、今言ったスタンス関係では是非今後とも、大和町の子どもたちのバックアップをお願いしたいと思っている。

町長：その辺はしっかりやっていきたい。

教育長：今の話だが、大きな学校だといろいろな子どもがおり、支援体制、生活支援、学習支援とか大変なことがある。県の方へ10名前後の定数以外の加配をお願いし配置してもらいやっている状況である。生徒指導・支援、LD、別室登校の子どもたちに追加指導の教員をお願いしている。来年度は大規模校の小学校に、落ち着いたかない子どもが増えてきているので、町に2名の増員をお願いしている状況である。今後も、状況を見ながら相談して参りたいと思う。

木皿委員：教育総務課長がおっしゃったことで、林間学校とかに行く時に、バスの支援事業とおっしゃっていたが、町のバスを使うから経費とかは掛からないことにな

る。

前の職場の教育関連支援事業をしていることもあって、役に立てるものもあるのかと思い聞いてみた。

大内委員：スクールバスの活用の中で、児童生徒の送り迎え以外にも使ってよいのであれば経費は掛からない。

教育総務課長：移動する際のバスについては、町のバスでなく町でバス会社に委託しており、町で負担している。

大内委員：スクールバスの延長なのか。

教育総務課長：スクールバスの延長ではなく、それはそれで執行している。

町長：今、おっしゃった林間学校の支援は、それはそれで使って良い。

鎌田代理：中学校の教育振興だが、国でも動き始めているようだが、中学校教員の部活動の負担軽減のための、外部指導員の導入のようなものを大きく力を入れるのは町として無理だと思うが、そのような動きを町としてしても良いのではないかと考えているので検討をお願いします。当然そこには人材が必要だが、どれくらいの人材が必要か検討もつかないが、そのような方向に動き出しても良いのかと思う。

教育総務課長：学校の外部指導員については、委員会でも考えているところであり、令和4年度も引き続きいろいろ調査とかし、いつするか検討していきたい。

大内委員：外部指導員のからみで、教育総務課長から検討という話だが、教育委員会の中で少し話したかも知れないが、宮城県そのものが肥満。そのような肥満対策の部分を含めて、外で遊ぶとか部活動するに繋がると思うので、そのような部分の対策も必要な気がする。みんな繋がっていくが、食育・給食センターも繋がっていく。そのような事も含めて是非来年度検討されて、5年度に新たにと思う。トータルで考えながら、一つ一つ展開していくことかと思う。

教育長：部活動の外部指導については、教育総務課長が話したとおり、今いろいろな情報を集めながら必要な段階を経て、国としては令和5年あたりサービスを始めるようで、今は準備段階で、やっている市町村もあるが、国としては令和5年あたりだ。その件については、教育総務課長も考えているようである。

肥満について、運動能力が宮城県は低かった調査がある。運動能力と肥満は一緒に統計を取る。県の中学生の運動能力は低かったが、大和町は高かった。総合点が平均以上だった。肥満については、ほぼ平均レベルライン。個別にみると肥満はいるので、注意しなければならない。部活動・健康管理・運動能力・肥満、トータル

に関連すると思うので、その辺を注意しながら進めていきたい。

町長：肥満確かに大和町はレベルが高い。健康支援課で仙台大学と共同で、各地区の子どもたちを家の生活から指導したが、その時は良いが指導が終わるとまた戻る。おばあさん方が可愛がっておやつを食べさせすぎる等もあり、家庭の協力が必要なところもある。定着しないというか、その時は下がるが。3年位前から各地区ローテーションで実施している。

大内委員：共働きとかも増えていることもあり、放課後、直接母親の元ではなく、預かりだったり、会議室みたいな場所だったりして、社会的な影響があるのだと思う。

町長：外で遊べない。遊ばせない。学校で、我々の頃は、校庭で「帰りなさい」と言われるまで遊んでいた。

大内委員：そうですね。「帰りの時間になりました」等あった。

町長：中学校は別である。

大内委員：教育委員会の中で話をするのがあり、自分たちが育った頃は、学力も生活も、できる・できないの間に真ん中があって、生活が裕福な人・大変な人・真ん中人がいて、この真ん中が空洞化して二極化しているので、そのような分野の対応も含めて大変な部分もあるのだろうなと感じている。だから、何かあったらすぐ探索しなさいとか、一人ひとりの子どもは大切である。

総務課長：その他ございますか。如何でしょうか。よろしいですか。(1)事業についての意見交換は以上とさせていただきます。次第(2)その他でございますが、本日は説明いたしました内容以外の事で、ご意見等ありましたらよろしく願います。

(2) その他

大内委員：教育委員会の中でお願いをしているが、去年から落合小学校が特認校になっている。その前段で各地域にも説明をして、それはそれで昨年から進めている事業だと思う。落合地区の中で、話は大きくなっていないが、その話の時に学校の在り方、小規模校の良さはあるとも思う。中学校は、もう大規模校になっている。

小規模校の問題もいろいろある。今後、今の状況だと落合地区にしても、子どもが増える可能性もない。極端な話をすると複式学級になって、地域と教育というところで、複式学級でも教育が成り立たなくなってから議論するのではなくて、もう

少しまえから推移を見ても、増えない状況は分かっていることなので、是非早めに例えば、落合小学校の建て替えの検討をする中で、学校も含めて地域の中で教育の在り方、統廃合も含めて議論する期間を取って進めてもらいたい。

例えば、鎌田先生、教育長の視点からみれば、いろいろ違った考え方もあると思う。そのような議論もタイミングをみて検討していただければと思う。

地域全体の教育だけでなく、地域全体を巻き込んで、そうでないと地域の関心もない。自分たちの暮らしに学校がなくなることがどんなことか、地域も考える良い機会になると思う。

今後の、教育行政と町の行政の総合的な視点をいろいろ考えて、手こずると思った。

町長：学校課題であり、中学校の再編のように、小学校についても将来的にここだけの問題でなく、教育の立場や地域の流れもある。理解したうえでの発言だと思う。大和町全体と言ったら広すぎると思うが。

大内委員：そうですね。近郊の市町村も小中一貫校になってきている。

町長：考えていかなければならない。

木皿委員：それに関して、鶴巣に総合計画の説明会に町長・教育長がいらして、鶴巣の人からもそのような質問がでた。教育長がその時に、学校の大きい小さいではなく、その学校にあった教育をしていくと、おしゃった。私も調べてみたら文科省で書いているところがあり、そのような方針とういか、打ち出されている。ここからきていると分かった。その学校にあった教育というが、どの時点までなのかは、はっきりしていない。地元の人からも吉岡小学校が新しくなるのだから、そこに統合してもらおう今がチャンスだというような意見をいう方もいるけれども、なかなかそこは町の方も教育委員会としても、回答の仕方は難しい点があるのだろうと察している。

大内委員：公教育なので、小規模校は全国にいっぱいある。そういうのを否定することもないし、小規模校のきめ細かな良さがあると思う。やっぱり、競争とか部活動にしてもできるものが限られてくる。今、小規模校だから廃止するとかではなくて、全体的な推移が問題になっているし、方向性が単純ではないのでいろいろ難しさはあるだろうと思う。

町長：将来的な課題になると思う。

総務課長：他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議題3の議題については、以上とさせていただきます。最後に閉会の挨拶を上野教育長から申し上げます。

教育長：本日は、総合教育会議を開催していただきましてありがとうございました。

委員の方には、沢山のご意見をいただきましてありがとうございます。

町当局には、日頃教育行政に対し、ご理解とご支援をいただいておりますことに心から感謝をしたいと思います。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策、吉岡小学校建設における基本設計・実施設計業務、GIGAスクール構想におけるハード面・ソフト面の整備、また社会教育施設・学校施設の長寿命化に関する整備等新たな財政措置を講じていただきありがとうございます。

令和4年度の各種事業につきましても、町当局のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。本日は、ありがとうございました。

総務課長：以上をもちまして、令和3年度第1回大和町総合教育会議を終了させていただきます。大変ありがとうございました。